

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2017. 11  
No.291

### 「おそうじ」は仕事！

最近、製造現場が汚れてきて、尚かつ2S(整理・整頓)も乱れてきています。

TPMで言えば、「清掃は点検なり」です。イナテックの企業理念で言うところ「おそうじ」です。どちらも「おそうじ」を通して、現場をきれいに美しくすることです。そうすると、「心」もきれいに美しくなつてきて、いろいろなことに「気づく」ようになり、いい仕事ができるのです。

そうすれば、必ず工程内不良は減り、機械故障もなくなります。毎朝の20分間清掃は、仕事です。しっかりと「おそうじ」という仕事をしてください。

また、管理・監督者の方は、部下の人達の“おそうじぶり”をしつかりと観察し、心を鬼にして

指導してください。これは管理・監督者の仕事です。20分間清掃は業務連絡をする20分間ではない！ということを肝に銘じてください。

必ず現場は良くなります。

### 2S(整理・整頓)を徹底

イナテックの2Sを何度でも説明します。2Sのコツは、

- ① 水平、直角、垂直
- ② 先入先出
- ③ 3定(定位、定品、定量)

この3つが常に徹底されていれば、これが乱れたときにすぐ問題が見えてきます。まずは、ルールややり方が決まっていらないものがあれば、それを決めてください。そして、徹底してください。

#### ① 水平、直角、垂直

これを実行すると気持ちよくなります。これが乱れたということは、そこに“人間(社員)”

の問題があるからです。例えば、忙しくてバタバタしている、まだ寝ができていない、などが原因です。

#### ② 先入先出(さきいれさきだし) ↓ ~~後入先出~~

先入先出にこだわってください。例えば、パレットでの段積み、通箱へ入れる順番、順序、先入品は日付順で出荷しているか、保留品確認後「何月何日加工」の記録は残して出荷しているのか、などがあります。

先入先出ができないということは、そこに問題が必ず潜んでいます。まずはロット単位から1個流しとレベルを上げていってください。

#### ③ 3定(定位、定品、定量)

これはルールです。  
まず、場所を決めてください(所番地)。次に、そこに何を置くのか“品名”を書いてください。そして、どれだけの量(最大・最少)を置くのかを決定してください。それが守れない時、そこに問題があります。

守れるようになったら、見直し(棚卸)を行ってください。それはなぜ置いてあるのか、その量は適正か、なぜそれだけ作らねばならないのか、なぜそれを買ったのか(わからなければ、それは死蔵在庫となります)などです。これも大変重要な「仕事」です。

「緊急ではないが、大変重要な仕事」、それが「おそうじ」と「2S」なのです。「大変重要な仕事」というのは、後回ししておくとその先に大問題が必ず起きます。

“おそうじ”と“2S”はバカにせず、「緊急ではないが、大変重要な仕事」として認識し、徹底させてください。

「やっただけできた」

監査役の知人からメール配信されているコラムに興味深い話が載っていました。まとめると、次のようなお話でした。

なかなかやらなかったことを、人から言われてやってみたら案外あっさりできたとき、「やればできるもんだ」と思ってしまう。

これに対し、「やっただけできた」というのは、実際に行動したから得られた成果ということ。 「やればできる」は、頭の中で「やればできる」と考えているだけ状態のことで、まだ成果がない、つまり、達成感がないのです。

また、「やっただけできた」というのは、成果は行動したことの結果であり、それ以上でもそれ以下でもないということです。

そして、本気でやってみないと成果は得られません。「こうやればできるのにな」というのではなく、「こうやったらここまでできた」と自分で納得できるように、もう一度初心に戻って、一つ一つ実行していきましょう。

これは松下幸之助さんの言う「成功するまでやる、だから成功するんだ」と同義のような気がします。このコラムを読んで、感動しました！


### 五三

多藏者厚亡、故知富不如貧之無慮。高歩者疾顛、故知貴不如賤之常安。

多く蔵する者は厚く亡り、故に富は貧の慮なきに如かざるを知る。高く歩む者は疾く顛る、故に貴は賤の常に安きに如かざるを知る。

一 厚く亡り——莫大な損をする。莫大な損をしやすいの意。二 疾く顛る——速くつまずき倒れる。つまずき倒れやすいの意。

財産の多い者は、莫大な損をしやすい。だから金持よりは貧乏人の方が、失う心配もなくてよいことがわかる。また、地位の高い者は、つまずき倒れやすい。だから身分の高い者よりは身分のない庶民の方が、(つまずく心配もなく)、いつも安心していられてよいことがわかる。



2.